



第6回 症例検討会報告

平成22年12月19日(日)午後1時より、すこやかプラザ2階セミナーホールにて、第6回症例検討会が開催し会員123名(参加者職種 医師、歯科医師、看護師、

埼玉県摂食・嚥下研究会だより

—高齡化時代のセーフティ・ライフを目指して—

vol.17

発行日 平成23年2月20日
発行者 埼玉県摂食・嚥下研究会
事務局 埼玉県浦和区針ヶ谷4-2-65
彩の国すこやかプラザ5F
(社)埼玉県歯科医師会内
TEL 048-829-2323

講演I 「摂食嚥下障害と胃瘻」

まちの内科クリニック院長 町野裕之先生



歯科衛生士、管理栄養士、言語聴覚士、作業療法士、ケアマネージャー、ケアワーカー他)が参加した。

大渡専務理事の司会の下、摂食嚥下研究会 島田篤副会長の開会の挨拶に引き続き、講演I、まちの内科クリニック 院長 町野裕之先生から演題「摂食嚥下障害と胃瘻」について、又講演II、埼玉県総合リハビリテーションセンター言語聴覚科長(現・埼玉県摂食嚥下研究会理事) 清水充子先生から演題「誤嚥性肺炎の予防(実践のポイント)」が講演された。

その後休憩をはさみ、約10名程度、12グループによる症例検討会が行われ、2症例についてトーチングされた後、6つのグループから症例についての意見交換が発表され、2人の講師から講評をいただき閉会した。

まちの内科クリニック院長 町野裕之先生には、「摂食嚥下障害と胃瘻」という演題で講演Iをお願いした。初めに研修医時代に急患で対応した患者さんの現病名を診断するまでに大変な苦勞をし、結果、自分の診断「重症筋無力症」が正しかった経験から、それ以降、嚥下障害とかかわりあうようになり、まだまだあまり広く胃瘻の造設がすすんでいなかった頃から積極的に取り組んできた話をされた。本論では以下の内容で講話され

た。現代の急速な高齡化の進行で、医療従事者や介護者が嚥下障害と向きあわざるを得ない社会構造になってきたこと。また、嚥下障害の種類も機能的・形態的な異常も含めて多く嚥下障害もひとくくりできないほど病態は多様化しているため、それぞれに対応できる処置が必要となっている。また患者および家族から寄せられる声は悩みの種類として、

- 1、まったく食べられなくなった
- 2、嚥下訓練の効果が見られない
- 3、少ししか食べられない
- 4、特定のものしか食べられない
- 5、食べてはいるが肺炎を繰り返す
- 6、嚥下訓練が進んで、また誤嚥を繰り返す元の状態になつてしまう
- 7、お互い疲れ果てた
- 8、先の見通しが立たず不安になる

世界約50カ国で愛用されているEBMに基づいた口腔ケア
口腔乾燥・・・biotène® バイオティーン

- + だ液にも含まれる天然酵素
ラクトベルオキシダーゼ
グルコースオキシダーゼ
リゾチーム
- + ラクトフェリン
- + 保湿・潤滑成分
- + キシリトール



21世紀の健康のキーワードは・・・唾液!!

T&K ティーアンドケー株式会社 ☎フリーダイヤル 0120-555-350
東京都中央区日本橋堀留町1-5-7 TEL: 03-5640-0233 FAX: 03-5640-0232
URL: www.biotene-tk.co.jp E-Mail: info@biotene-tk.co.jp



などである。
 そして食べられない方、あるいは食べるだけで栄養が不十分な方にはいくつかの方法があり、時には経口栄養剤を飲んでもらい、経鼻経管栄養や中心静脈栄養、高カロリー輸液や胃瘻による栄養補給が必要になる、しかしいずれも問題点を抱えよう言った悩みにどう対応したら良いかが問われている。

そこで、以前は小児の先天的な栄養補給を家庭でできるように考案された胃瘻の造設を悩める嚥下障害患者のために進んで適応する事とした。胃瘻造設は非常に迅速かつ安全に行え、また患者家族にとっても非常に有益な手法であ

る。しかし造設を決める時には家族とのコミュニケーション、インフォームドコンセントが重要である。胃瘻の後、嚥下訓練やリハビリテーションについては何しろ気長にやる事、お互いのストレスはためない、誤嚥を繰り返すような症例は無理しない、そして効果や期待は大きいのが効果の出るか元に戻るかは現疾患によるところが大きく、比較的早期に回復するものは良いが遅い回復には期待も薄い事を承知してもらう。胃瘻の良い点として10項目を、胃瘻の有効な利用法について8項目を提示していただいた。

最後に、実際の理想症例について2ケースを解説していただいた。これまで胃瘻を造設したら食べられないと、誤った考えを抱いていた参加者の中にはいたようで、しきりにメモを取り学習していたようであった。まとめとして、胃瘻は最善とは言えないまでもリハビリの補助や時間稼ぎとしても有用であり、嚥下障害の方の生活改善の選択肢の1つとして考えてはどうだろうかとの提案もあった。非常に分かりやすい講演であった。

【講演Ⅰ 資料】

胃瘻の良い点(10項目)

- ① 意識の無い方、嚥下障害の方も可能
- ② 造設時間は正味10〜15分ほど
- ③ 傷が小さい(1センチほど)
- ④ 痛みが比較的軽い
- ⑤ 体内に入っているチューブは3〜5センチしかない
- ⑥ 合併症の頻度が少なく比較的安
- ⑦ 経口摂取と併用できる
- ⑧ オリジナルなものが入られる
- ⑨ 交換ができる

- ⑩ 廃止が容易、再造設可能(気に入らなければやめられる)

胃瘻の利用の仕方

- ① 少し食べられる方は味わう程度の経口摂取でメインは胃瘻から
- ② 少量しか食べられない方は補助として
- ③ 液体が誤嚥する方は液体のみ胃瘻からおけんとして
- ④ 菓が苦手な方は液体にして胃瘻から
- ⑤ 食べられない時の保険として
- ⑥ 家族の愛情表現として
- ⑦ 家族の楽しみとして
- ⑧ 施設のニーズとして

講演Ⅱ 「誤嚥性肺炎の予防(実践のポイント)」〜言語聴覚士の立場から〜

埼玉県総合リハビリテーションセンター言語聴覚士科長
 (現埼玉県摂食嚥下研究会理事)

清水 充子先生



清水先生は、埼玉県総合リハビリテーションセンター言語聴覚科長として日頃から摂食・嚥下障害の患者を治療されており、本日は誤嚥性肺炎の予防(実践のポイント)と誤嚥性肺炎を繰り返す方を改善した症例を話された。

最初、図1を使って嚥下の仕組みを話された。次に加齢による摂

口臭防止

マウスピュア

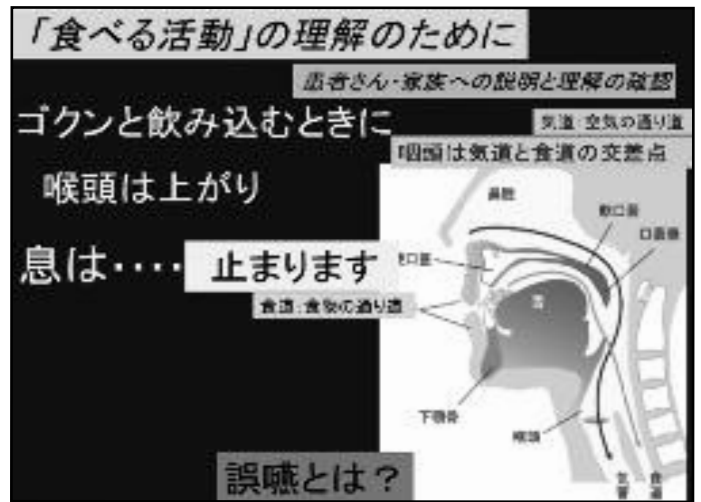
口腔環境づくりをサポート
 口臭防止・歯肉炎・歯周炎の予防に！
 保湿剤(ヒアルロン酸Na)(濃グリセリン)配合で
 お口が乾燥しがちな方にオススメです！

種類	希望小売価格
40g	1,470円(税込)

内容量 40g

福川本産業株式会社

本社/大阪中津区本通東2丁目4番1号
 ●お客様相談センター 0474-4954
 ●商品に関するお問い合わせセンター 06-6940-8941
 http://www.hanayama.co.jp



食・嚥下への影響を口腔、喉(のど)、食道について説明された。嚥下障害を疑う徴候は、①鼻にかかった声、②ムセや痰、③著名な流涎、④湿性嘔声、⑤発熱や肺炎であり、このことが体力低下につながり、低栄養や夜間の咳漱発作による睡眠障害を起し介護負担につながる。

次に誤嚥と誤嚥性肺炎について話され、口から食べない場合(経鼻経管チューブ、胃瘻)でも口腔内が汚れている場合や胃食道逆流があると肺炎を起こすことがあるので注意が必要と話された。誤嚥性肺炎には3つのパターンがあり、その中でもずつと普通に食べてきたつもりの高齢者が

が肺炎を起こすことがある。その背景には唾液の夜間誤嚥、胃食道逆流、呼吸・免疫機能低下などによる予備能の破綻があり注意が必要。次に実際の症例を示され、70代後半の女性、玄関前で倒れているところを発見され病院に搬送、1カ月後当院(リハセシオン)に転入院された。障害名は関節可動域制限と摂食・嚥下障害、合併症は認知症(HDR7/30)であった。咽頭への送り込み拙劣、咽頭残量あり水分は誤嚥の危険性があった。経鼻経管栄養(6週間)から始めゼリー、栄養補助ムースなどを使いリハビリを行う。NGチューブ抜去するが心不全悪化、水分排出不良があるが薬物療法で改善、37度代発熱があるがその後改善し経口摂取再開し、1カ月後症状安定療養型病院へ転院、その後経過良好。本症例のポイントは、

- ① 評価、観察と嚥下リハビリによる誤嚥の最少化、
- ② 口腔衛生、臥位姿勢の安全、夜間管理等の徹底、
- ③ 栄養管理の徹底、
- ④ バイタルサイン、炎症反応、他疾患の症状確認の徹底であった。

最後に誤嚥性肺炎予防についてとリスク管理について話された。非常に有意義な講演だったと思う。

グループワークによる症例検討会



その後、12グループに分かれてグループワークを行い、前回の講演会でアンケートしたの中から選んだ1つの症例をグループで討議して発表した。症例はVEやVFがない施設や在宅で多くみられるようなケースで、脳出血後遺症で肺炎を繰り返している患者さんに関するものだった。お2人の講演を聞いた後だったこともあり、麻痺の問題、食事時の姿勢、食事形態、むせや痰、口腔衛生のことなど、他職種が同じテーブルで討議し問題点を見つけ出すことは自分にはない考えを学ばせていただき有意義であったと思う。次回も多くの方のお役に立てるような内容の講演会を目指します。今後とも、皆様のご支援をお願いいたします。





療養生活をサポートする摂食・嚥下リハビリテーション

生きること 口から食べること



定価 各 **3700 円**
(税込・送料無料)

申込 (住所・氏名・電話番号・上下巻を記入)

三輪書店 FAX
03-3816-8762

監修：(社)全国在宅歯科医療・口腔ケア連絡会 HDC(Home Dental Care) net
HP <http://e-shika.org/> E-mail jimukyoku@e-shika.org

<p>上巻</p> <p>現場で活用できる食支援ケア (本体3524円+税5%) 97分</p> <p>対象 家族・看護・介護従事者向け</p> <p>内容 嚥下障害と肺炎(立体CGと動画による解説)</p> <p>収録 食事介助方法 栄養士からの食支援(介護食と嚥下食の調理と栄養) 口のできない方への食支援(文庫・嚥下・床ケア) ごっくん体操</p>	<p>下巻</p> <p>嚥下評価の習得 (本体3,524円+税5%) 95分</p> <p>対象 医療者・介護従事者向け</p> <p>内容 嚥下評価とは(脳血管障害・神経筋疾患・認知症の嚥下障害)</p> <p>収録 評価と嚥下検査テクニック(嚥下検査音収録) 同僚医師と共同授業(仮設診療所における嚥下訓練の一環) 嚥下観への対応 コラム(リスク管理と問診・食料管理のポイント)</p>
--	---

自宅で歯の治療を受けられます

● 電話相談窓口を開設しました

在宅で療養している人や体が不自由な人など、歯科医院への通院が困難な人のために、埼玉県の委託を受け、埼玉県歯科医師会では「在宅歯科医療推進窓口」を開設しました。この窓口では、訪問診療を実施している歯科医院の紹介などを行っています。

訪問診療も原則として医療保険制度が適用されます



■ 在宅歯科医療推進窓口

〔(社)埼玉県歯科医師会内〕

☎ **048-829-2323**

月～金 10:00～15:00

(祝日、年末年始を除く)

埼玉県摂食・嚥下研究会

第12回講演会

日時：平成23年**3月27日**（日）13:00～16:00

場所：彩の国すこやかプラザ2階セミナーホール

講演 I

演題：「神経難病における球麻痺・呼吸障害に関して」

講師：社会福祉法人毛呂病院 埼玉精神神経センター センター長
埼玉県医師会理事、埼玉県摂食・嚥下研究会監事

丸木雄一先生

講演 II

演題：「がんによる嚥下障害の原因と対策」

講師：静岡県立がんセンターリハビリテーション科 副主任
言語聴覚士

神田 亨先生

■定員：250名

※参加者多数の場合はご連絡いたします。

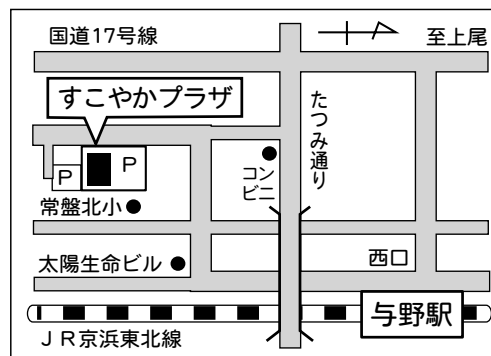
※改めて参加証はお送りいたしません。

■参加費：会 員 / 無 料
非会員 / 2,000円（資料作成代等）

■申込締切日：3月17日（木）

主 催：埼玉県摂食・嚥下研究会

問合せ：埼玉県歯科医師会事務局 TEL 048-829-2323



参加申込書 埼玉県摂食・嚥下研究会（会員・非会員）※どちらかに○を付けてください

フリガナ		職 種	
氏 名		電 話	
住 所 (勤務先)	〒 -	F A X	

申込書 FAX先 **048-829-2376**